

(6) 学校事務部会

会 長 西尾 亜紀 (中 村 中 学 校)
副会長 松本 望 (中村南小学校)
事務局 上岡 誠 (中 筋 小 学 校)

1. 研究主題「学校と地域をつなぐ事務職員を目指して」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和5年 5月9日(火)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出・研究主題決定・年間計画	中村中学校	20名参加
令和5年 7月28日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：学校と地域をつなぐ事務職員を目指して (地域と共にある学校、学校から地域への情報 発信など) 講師：MS I 株式会社 久野 秀明 様	中村小学校	20名参加

3. 今年度の取組

●四万十市教育研究会夏季研修会 講師と参加者とのディスカッション

(1) FMはたらんど (コミュニティーラジオ) の概要について

中村小学校区 (四万十市中村新町) にスタジオを設け、「FMはたらんど」というコミュニティーラジオ局が2023年秋に開局予定である。その電波は半径10キロメートル程度しか届かず、開局当初は四万十市・黒潮町・宿毛市・土佐清水市の一部のみが対象となる。しかし将来的には中継アンテナを立て、幡多全域に全域に届ける計画である。(受信エリア外でもアプリで聴取可能)

通常FMラジオは娯楽がメインだが、コミュニティーラジオは地域への情報発信、地域の方に出演して頂くなど、地域の皆さんによる、地域の皆さんの為のラジオ局となっている。

(2) 学校は「FMはたらんど」をどのように活用できるか

- ・スタジオに見学などに行かせてもらって、総合的な学習の時間やキャリア教育で活用したい。
- ・各校に取材に来てもらい、児童・生徒が出演するなど学校の情報発信に活用したい。
- ・学校の行事の案内や、学校事務職員の仕事内容の周知なども行える。
- ・取材に来てもらう事は無料だが、放送で流すには費用が発生する。(1時間番組1回なら5千円、1ヶ月間なら3万~5万円必要)
- ・学校がスポンサーを紹介できれば、スポンサーとの交渉はラジオ局が行う。スポンサーがつくとCMが流れるため、学校の費用負担は発生しなくなる。
- ・給食の時間帯に、小中学生向けの情報等を放送してもらえれば、活用したい。
- ・活用に向けての課題・・・学校単独で放送費用を支払う事は難しく、スポンサー探しなど費用面が課題と感じた。

→これらの課題解決には、「行政情報の枠」での対応できるのではないかな。

今後、四万十市とFMはたらんどの間で、行政情報を発信するための「行政情報の枠」といった取り決めができれば、「行政情報の枠」で、学校をその対象とできるのではないかな。そうなれ

ば、学校としての費用負担の課題がなくなる。

◇参加者からの意見・感想

- ・総合的な学習の時間や、キャリア教育の面で、コミュニティーラジオを学校教育に活用できるのではないかと感じた。

しかし学校の広報活動の面からは、学校が費用を負担する、もしくはスポンサーを探せば、コミュニティーラジオで放送出来るとの事だったが、実際には両方とも難しいのではないかと感じた。学校事務職員として広い視野を身につける上ではよい研修会になったと思います。

- ・身近な地域でコミュニティーラジオ開局の動きがあるという事を初めて聞いたので、とても新鮮で興味深かった。

SNS、情報過多の時代ではあるが、地域に寄り添った、地域と共生という視点では、すごく将来性のある事業だと感じた。

どなたかの意見でもあったが、学校でも昼休み等の時間帯に校内放送でラジオを流す、授業で活用するなど地域と繋がる手立ての一つにすぐにでもなりそうで、開局が楽しみだと思った。

- ・ラジオはあまり聞かないのですが、内容が地域限定版だったら聞きそうな気がしました。また学校での活用方法の中で、給食放送に活用できればという意見いいと思いました。給食放送がマンネリ化しているので、お昼の時間にラジオから音楽や物語等を流して頂けると活用できるかもと感じました。
- ・地域と連携してより良い物を作っていく部分は学校事務と同じなので、とても面白い話でした。質問の時間もたくさんあったので、有意義な時間になりました。
- ・何かをやりたい時、その行動の協力者や支援者を得たい時に、ラジオに出演してみるのも実現させるための一つの手段であると感じた。
- ・こういった研修会は行政関係の方との関わりが多いので、民間の講師はとても新鮮だった。



4. 今年度の成果と課題

今年度は、直接学校事務職員の実務にかかわる内容ではなく、学校関係でない違うジャンルのお話をきくことができた。お話の中で自分たちの日々の仕事に取り入れるヒントを得ることもでき、学校事務職員として広い視野を持つことができた。

また、講師が日々感じている幡多地域や四万十市の魅力について聞くことができ、たいへんうれしく感じた。そして、その地域の魅力や良さを児童生徒にも感じてもらい、「ふるさとを愛し、夢と志をもって、未来を切り拓く人」になれるよう、オール四万十、チーム学校の一員として自分たちにできることをやっていかなければならないと、あらためて思うことができた。

しかし、学校からの情報発信の仕方や、注意点を学ぶという観点では少し物足りないと感じた参加者もあり、全員のニーズに応えることは難しい。